

科目名 高崎市の課題と政策
Title Issues and Policies of Takasaki City
科目区分 特別講義

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 高崎市 (タカサキシ)
教授 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)

E-Mail

配当年次 2 単位区分 単位数 開講時期
2 選択 2 後期

目的

地域政策学を学ぶ学生にとって、政策学の理論を学ぶことに留まらず、地域政策の主体でもあり、自らが居住し学ぶ場でもある高崎市が抱える課題と取り組みについて知ることは重要である。
本講義は、高崎市が抱える課題と解決策としての政策について、高崎市の担当者を中心とする「生の声」を聞き、より実感をもって地域政策学を考える機会を提供するものである。自治体への就職を希望する学生にとっては、自身のキャリアについて考える有効な機会にもなるはずである。

達成目標

地域政策学の理論と組み合わせ、高崎市が抱える課題と政策について自分なりに考える力を身につけること。

スケジュール

第1回	高崎市の現在	高崎市の総合計画について学ぶ
第2回	財政計画	高崎市の財政の現状と将来的な課題について学ぶ
第3回	高崎市の防災政策	高崎市の防災政策の現状と将来的な課題について学ぶ
第4回	まとめ1	教員と学生、学生同士による討論(大学)
第5回	産業の振興	高崎市の商工振興政策を学ぶ
第6回	安心・安全な地域社会づくり	高崎市の交通網整備について学ぶ
第7回	大勢の人が歩き、賑わう街	高崎市の観光政策等について学ぶ
第8回	文化と歴史を生かした創造的な高崎	高崎市の文化政策等を学ぶ
第9回	まとめ2	教員と学生、学生同士による討論(大学)
第10回	スポーツ振興による街づくり	高崎市のスポーツ振興によるまちづくりについて学ぶ
第11回	教育と人づくり	高崎市の教育政策について学ぶ
第12回	やさしい眼差しに満ちた市政	子供等の暮らしやすいまちづくりを学ぶ
第13回	議事(議会)運営	高崎市議会の仕組みについて学ぶ
第14回	総括	高崎市の現状と将来に向かっての可能性を探る
第15回	全体のまとめ	教員と学生、学生同士による討論(大学)

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 必要があれば講義中に指示する。

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について情報収集し、予習をすること。授業後はノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

毎回の講義で課されるレポート70%、平常点(毎回の講義感想)30%で評価する。
また、遅刻は平常点から減点し、積極的な質問や意見には、別途、加点することがある。

履修上の注意

学外から迎える講義担当者に失礼のないように受講すること。
担当者の都合により内容が変更になる場合がある。

科目名 防災政策論
Title Disaster Prevention Policies
科目区分 特別講義

担当教員
非常勤講師 堤 純 (ツツミ ジュン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

日本列島は地球上でもまれにみる地震と火山噴火の多発地帯である。それに加えて、地球上でもっとも降水量の多い地域の一つであり、豪雨に関わる洪水や土砂災害も頻発する地域でもある。2014年9月の御嶽山噴火や、2018年1月の草津白根山噴火、さらには2018年9月の北海道胆振東部地震、2019年10月の台風19号のように、常識を覆すような「想定外」の災害も記憶に新しい。本講義では、災害に対する知識を深めるとともに、いかに「想定外」の事態を減らし、もし災害に遭遇したとしても、その被害を軽減するための基本とは何かについて考える。

達成目標

様々な地域問題の背景、所在、現況、展望等を理解し、具体的な問題について自ら方策を考えられるようになる。また、それらをわかりやすく説明する能力を身に付ける。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション (さまざまな災害の種類と特徴)
- 第2回 ハザードマップと防災・減災
- 第3回 集中豪雨・洪水被害と地域 (茨城県常総市の事例ほか)
- 第4回 都市型ゲリラ豪雨と地域 (東京の事例)
- 第5回 土砂災害と地域 (愛媛県の事例ほか)
- 第6回 気象災害と地域① (台風、豪雪の事例)
- 第7回 気象災害と地域② (オーストラリアの旱魃と山火事)
- 第8回 地震災害と地域① (東日本大震災ほか)
- 第9回 地震災害と地域② (アメリカ・オレゴン州の事例)
- 第10回 火山災害と地域 (北海道有珠山の事例ほか)
- 第11回 災害からの復興① (ハード面の復興)
- 第12回 災害からの復興② (ソフト面の復興)
- 第13回 災害に強い地域① (自助・共助・公助)
- 第14回 災害に強い地域② (地域のレジリエンス)
- 第15回 平常時の「恵み」

教科書・参考文献

教科書 資料 (パワーポイントの抜粋) を配布する。

参考書 『地理学概論』朝倉書店。

授業外での学習

毎回の授業で用いる教材 (パワーポイント資料等) をネット上で公開する (公開元のURLは初回授業時にアナウンスする)。次回授業においてどんなトピックスが話されるかについて、関連する情報を各自で事前から授業に臨むこと。

評価方法

筆記試験での評価分 (50%) と、授業終了時に記入する毎回のコメントシート (小テスト) の記述内容 (50%) を合算して評価します。
欠席回数が高崎経済大学の基準回数以上の場合は、学期末試験の受験資格が無くなるので要注意のこと。

履修上の注意

毎回の授業で用いる教材 (パワーポイント資料等) をネット上で公開する。授業時間中にネット接続して閲覧することは可とするが、紙媒体でじっくり詳細を確認したい者は各自で事前にダウンロードのこと。なお、出席記録の不正 (いわゆる「ヒ逃げ」) については厳正に対処するので注意のこと。

科目名 資本市場の役割と証券投資
Title Role of the Capital Markets and the Securities Investment
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数

開講時期

目的

(目的) 野村証券ほかグループ会社の役職員が、各人の職務経験をふまえ、それぞれの専門分野につき実務体験も反映した講義をオムニバス形式で行います。
(概要) 資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と、投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説します。

達成目標

就職までに身につけておいたほうが良いことや有能な社会人となるために必要なことを理解する。
経済と金融についての知識、人生設計とライフプランニングの知識を身につける。
債券、株式、投資信託についての基礎知識を学ぶ。

スケジュール

- ※講義の内容・順番は変更となる可能性があります。
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 経済情報の捉え方
 - 第3回 金融資本市場の役割とその変化
 - 第4回 株式市場の役割と投資の考え方I
 - 第5回 株式市場の役割と投資の考え方II
 - 第6回 外国為替相場とその変動要因について
 - 第7回 債券市場の役割と投資の考え方I
 - 第8回 債券市場の役割と投資の考え方II
 - 第9回 投資信託の役割とその仕組み
 - 第10回 リスク・リターンとポートフォリオ分析
 - 第11回 日本の株式市場史
 - 第12回 産業展望と投資の考え方
 - 第13回 財務分析と企業評価について
 - 第14回 資本市場における投資家心理
 - 第15回 まとめ：ライフプランニングとNISA

教科書・参考文献

教科書 講義資料は毎回講師が用意します。

参考書 「証券投資の基礎」 野村証券投資情報部 編 丸善株式会社

授業外での学習

日々の為替相場・株価等を新聞やニュースなどから積極的に情報収集して下さい。また、授業後は必ずノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着をはかって下さい。

評価方法

期末試験結果(100%)で判断します。

履修上の注意

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましいです。

科目名 地方分権論
Title Decentralization of Power
科目区分 特別講義

担当教員
非常勤講師 林 健一 (ハヤシ ケンイチ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	後期

目的

地方自治とその組織体のあり方は、国や時代によって多様ですが、その態様は中央と地方の関係を構築する制度に大きく依存しています。我が国の地方自治制度は、第2次世界大戦後の改革の中で作られ、ここ20年間の累次の地方分権改革によって大きく変化しています。この講義では、地方自治体と国との関係、いわゆる中央地方関係（政府間関係）について学んでいきます。特に日本の地方分権改革について、政治的分権、行政的分権、財政的分権という3つの観点から分析を加え、その到達点と課題を明らかにしていきます。また、群馬県庁での政策立案、実施などの実務経験を活かして、理論と実務の視点から、地方自治（団体自治・住民自治）と地方分権の関係について考えていきます。

達成目標

- ① 中央・地方政府の相互関係と政府の多階層構成の具体像を理解し、地方政府（都道府県、市区町村）の制度的特徴、役割、直面している課題について説明できる。
- ② 日本の地方分権改革の変遷、改革内容を理解し、改革がもたらした成果と残された課題、未完の分権改革の意味について説明できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス（科目の目的と概要、授業計画、履修上の注意事項等）
- 第2回 現代の政府体系 - 中央集権と地方分権
- 第3回 日本の中央地方関係①（明治期～太平洋戦争期）
- 第4回 日本の中央地方関係②（戦後改革期）
- 第5回 第一次地方分権改革①（戦後日本の地方制度の特徴と課題）
- 第6回 第一次地方分権改革②（改革の到達点と残された課題）
- 第7回 三位一体改革と地方税財源の充実①（国庫補助負担金と地方交付税をめぐる課題）
- 第8回 三位一体改革と地方税財源の充実②（三位一体の改革と地方財政）
- 第9回 第二次地方分権改革①（予算関連の改革、補助金の交付金化）
- 第10回 第二次地方分権改革②（義務付け・枠付けの見直し、分権改革と条例）
- 第11回 平成の市町村合併と基礎的自治体の変容
- 第12回 基礎自治体等への権限移譲
- 第13回 広域自治体の役割と道州制
- 第14回 自治体の地域間連携・補完
- 第15回 地方分権改革の総括と展望（まとめ）

教科書・参考文献

教科書 教科書は指定しません。レジュメ等の資料を配布し解説する。

参考書 西尾勝(2004)『行政学(新版)』有斐閣の第5章、第6章、西尾勝(2007)『地方分権改革』東京大学出版会

授業外での学習

授業後は、配布資料のキーワードや授業中に取ったノートを復習し、学習内容の定着に努めてください。また、日頃から新聞や自治体の広報誌等に掲載された、行政改革の動向や地域行政の話題に関心をもつよう心がけてください。

評価方法

期末試験80%、平常点20%（毎回提出してもらった「ふり返しシート」の得点）によって成績を評価する。ただし、「ふり返しシート」の意見・内容等が特に優秀なものは加点することがあります。

履修上の注意

授業中の私語、飲食、途中退席は厳禁とします。公務員試験や地域行政に興味のある学生の受講をお待ちしています。毎回、レジュメ等を配布し、パワーポイントを利用して、分かりやすく講義していきます。また、「ふり返しシート」を配布し、授業のおもしろかったところ、わかりにくかったところ、質問、反論等を記載、提出してもらい、次回の授業で活用する等、双方向型の授業形態をとっていきます。

科目名 特別講義「世界と日本の未来を考える」
Title Special lecture : Perspective of the future in Japan and the world
科目区分 特別講義

教授 水口 剛 (ミズグチ タケシ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

未来はいつも、私たちの予想を超えた展開を見せている。コロナ禍をはじめ、かつてないほど不確実性が高まった現代では、過去の正解の延長線にあるビジネスでは限界が見えており、世界中の国や企業では「バックキャストリング」という思考法に注目している。本講座は、SDGs (持続可能な開発目標) などの地球規模課題やイノベーション創出の分野において第一線で活躍している方々をゲストに招く「講義」と、学生がチームで新規事業開発を行う「ワークショップ」を実施するプロジェクト型学習プログラムである。講義によるインプットだけでなく、企業研修やインターンシップでも導入されているレゴブロックなどを活用した「自らが望む未来」を実現するための新規事業を考えるアウトプットを行うことで、先の見えない「正解のない時代」を生き抜くための生き残りスキルと、バックキャストリング思考などのスキル獲得を目指す。

達成目標

①知識・理解：SDGsとは何かを本質的に理解し、SDGsを通して様々な企業の可能性や自分と世界とのつながりを知る ②スキル：様々なメディアやデバイスを活用して情報を収集する力、課題を設定する力、未来を描く力、他者へ伝える力 ③マインド・態度：不確実な未来に前向きに向き合い、他者と対話を通してアイデアを生み出すマインド (態度)

スケジュール

この講義の企画・設計・進行は、こども国連環境会議推進協会 事務局長 井澤 友郭 氏、NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 事務局長 園田綾子 氏、事務局次長 阪野 朋子 氏の協力により行われる。

- 第1回 インタロダクション&チームビルディング
- 第2回 スキル演習：問う力とファシリテーション
- 第3回 講義1：2030年に向けて、私たちにできること～SDGsで未来を考えよう (外部講師調整中)
- 第4回 講義2：活力ある地域の作り方について考える (外部講師調整中)
- 第5回 講義3：ジェンダー・ギャップの解消について考える (外部講師調整中)
- 第6回 講義4：日本の貧困について考える (外部講師調整中)
- 第7回 講義5：地域と環境の好循環について考える (外部講師調整中)
- 第8回 ワークショップ：私たちが望む未来をレゴブロックを活用して描く
- 第9回 講義6：木の力で、世界を変える (外部講師調整中)
講義7：デジタルの力で、世界を変える (外部講師調整中)
- 第10回 講義8：食の力で、世界を変える (外部講師調整中)
- 第11回 講義9：金融の力で、世界を変える (外部講師調整中)
- 第12回 ワークショップ：課題解決に向けたリソース=企業の決定
- 第13回 ワークショップ：新規事業の開発～課題の深掘りとリソース活用
- 第14回 ワークショップ：プレゼンシナリオの制作
- 第15回 ワークショップ：全体リフレクション

協力：こども国連環境会議推進協会・NPO法人サステナビリティ日本フォーラム

教科書・参考文献

教科書 指定なし。必要に応じて講義中に指示する。

参考書 指定なし。必要に応じて講義中に指示する。

授業外での学習

授業は、担当教員の講義、ゲストスピーカーの講演、グループディスカッションにより構成される。登壇される外部講師の課題動画を視聴したり、記事や会社のHP、関連Newsなどを事前に読んでおくこと。チームで新規事業を開発する際に、Slackなどを活用したディスカッション、プレゼン資料や動画の制作などを行うことを予定。

評価方法

参加姿勢：30%
レポート (授業ごと)：30%
最終成果物 (新規事業開発ワークショップ)：40%

履修上の注意

①ディスカッションなどチームによる学習活動を行うため全ての授業に出席すること。チーム編成は数回変える予定。②新規事業ワークショップの時間だけでなく、ゲストによる講義もグループディスカッションを行う。正解を探すのではなく自身の考えを伝え、まわりの人々の考えに積極的に関わり共にアイデアを生み出す姿勢が求められる。③登壇者や登壇日は予定であるため、登壇者や日程が変更した場合は第1回の授業で発表する。

科目名 市民生活と法
Title Civil Life and Law
科目区分 特別講義

非常勤講師 群馬弁護士会 (グンマベンゴシカイ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

「市民生活と法～ゆりかごから墓場まで」をキーワードに、人々が日常生活を送るうえで遭遇しうる様々な法的問題について、法制度や弁護士の役割等を踏まえながら検討する。

達成目標

日々の出来事に含まれる法的問題について、自ら考える力を養うとともに、それらを解決するための法制度、弁護士の役割について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス、弁護士の仕事とは
- 第2回 犯罪に関する法律問題
- 第3回 交通事故に関する法律問題
- 第4回 借金に関する法律問題
- 第5回 子どもに関する法律問題
- 第6回 雇用に関する法律問題
- 第7回 インターネットに関する法律問題
- 第8回 人権に関する法律問題
- 第9回 災害に関する法律問題
- 第10回 医療に関する法律問題
- 第11回 男女に関する法律問題
- 第12回 企業に関する法律問題
- 第13回 消費者に関する法律問題
- 第14回 高齢者に関する法律問題
- 第15回 司法制度に関する法律問題

教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 六法

授業外での学習

新聞やニュースなどから積極的に情報収集し、日常生活に関わる法的問題について、自ら考える習慣をつけること。また、後半の20～30分間で質疑応答の時間を設けることもあるので、授業の前に各テーマに沿った質問を考えておくことが望ましい。

評価方法

受講状況(55%)を第一とし、期末試験の結果(45%)を考慮して評価する。期末試験には、講義内容を理解できていれば比較的容易に回答できる選択式の問題を、第1回～第15回から3問ずつ、計45問出題する(講義資料と六法の持ち込みは自由)。

履修上の注意

講師の都合により講義スケジュールが変更になる可能性がある。また、講師の指示により質疑応答が行われる場合には、各回の17時頃に回収となるため、講義中に「講義感想・小テスト用紙」に質問事項等を記入のうえ、回収の準備をしておく。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
非常勤講師 田中 将人 (タナカ マサト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

私たちが現在生きているこの社会は、どのような来歴を有し、いかなる性質をもち、そしてどこに向かおうとしているのだろうか。本グループ研究では、現代社会を距離をとって見ることのできる視点を身につけるため、古典中の古典であるプラトン『国家』の読解を通じて、本自体に親しむと同時に、これらの論点について学習・議論することを目的とする。

達成目標

古典を読むための基礎を身につける。レジユメの切り方、ディベートの仕方の基本を学ぶ。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 プラトンの政治哲学①
- 第3回 プラトンの政治哲学②
- 第4回 『国家』①
- 第5回 『国家』②
- 第6回 『国家』③
- 第7回 『国家』④
- 第8回 『国家』⑤
- 第9回 中間のまとめ
- 第10回 『国家』⑥
- 第11回 『国家』⑦
- 第12回 『国家』⑧
- 第13回 『国家』⑨
- 第14回 『国家』⑩
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 プラトン『国家』(上・下) 藤沢令夫訳、岩波文庫、1979年

参考書 教科書は各自購入のこと。追加の関連資料はこちらで用意・配付する。

授業外での学習

毎回きちんと予習・復習を行うこと。質問を必ず考えておくこと。履修人数にもよるが、最低一度はレジユメを切ってもらおう。

評価方法

担当箇所のプレゼン(20%)、受講状況(60%)と議論の程度(20%)を評価する。

履修上の注意

事前に身につけておくべき知識はとくにありませんが、意欲的な参加者を歓迎します。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員 担当教員との連絡方法
特命教員 中原 真祐子 (ナカハラ マユコ)

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 中原 真祐子 (ナカハラ マユコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 中澤 芽衣 (ナカザワ メイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 中澤 芽衣 (ナカザワ メイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 中澤 芽衣 (ナカザワ メイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 寺田 光成 (テラダ ミツナリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 寺田 光成 (テラダ ミツナリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 塩山 貴奈 (シオヤマ タカナ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員
特命教員 塩山 貴奈 (シオヤマ タカナ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究I
Title Group Studies I
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本講義では、初年次ゼミで学んだことを活かしながら、さらに発展的な大学での学習方法を学ぶ。そして、地域における様々な課題の発見と解決に向けた研究方法の基礎を身につけることを目的とする。

達成目標

本講義では、2年生からの学びの土台となる次のような能力を涵養する。①発信力・プレゼン能力：自ら情報を人に伝えることができる。②コミュニケーション能力：グループのメンバーと協力して一つの物事に取り組むことができる。③自己分析能力：将来について、自己分析をもとに考えることができる。④文書作成能力：学術的なレポートを書くことができる。⑤資料検索能力：自らの問いに対して、適切な資料を探ることができる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：本講義の進め方をレクチャーします
- 第2回 研究とは何か：グループ研究を進めていくにあたって、基本的な研究の仕方を学びます
- 第3回 プレゼンをしよう！：プレゼンテーションを行う基礎をパソコンを使って学びます
- 第4回 テーマリサーチ1：各クラスの担当教員の特徴をいかして、テーマリサーチの手法を学びます
- 第5回 テーマリサーチ2：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第6回 テーマリサーチ3：グループを作って、テーマリサーチの準備をします
- 第7回 インタビューしよう1：インタビューの基本を学びます
- 第8回 インタビューしよう2：高崎経済大の専任教員にインタビューしに行く準備をします
- 第9回 テーマリサーチ4：テーマリサーチの中間報告をグループで行います
- 第10回 キャリアデザイン1：働くとは何かをクラスで考えましょう。
- 第11回 キャリアデザイン2：社会のなかでの多様なキャリアを知りましょう。
- 第12回 キャリアデザイン3：自己分析をして、自身のキャリアデザインを考えましょう。
- 第13回 インタビュー報告：インタビュー結果をクラス内で報告してもらいます。
- 第14回 テーマリサーチ5：報告に向けて最終確認をします
- 第15回 テーマリサーチ報告会：第4回から続けてきたテーマリサーチ報告をしてもらいます。

教科書・参考文献

教科書 各担当教員が指示します

参考書 必要に応じて各担当教員が紹介します

授業外での学習

教材を活用し自分なりに予習・復習をするとともに宿題やグループワークに積極的に取り組み、学習内容の定着を図ること。

評価方法

講義への取り組みや提出した課題などを踏まえ、到達目標の達成状況を総合的にみて担当教員が判断する(100%)。

履修上の注意

クラスやグループのメンバーと協力しながら、講義およびそこで出される課題に積極的に取り組むこと。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

准教授 井手 拓郎 (イデ タクロウ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本科目の目的は、自分なりのリーダーシップの開発と問題解決力の向上である。個人や組織、地域、社会全体、さまざまな領域でわれわれは何かの問題に困まれている。地域リーダーになることが期待される地域政策学の学生は、他者と協働しながら問題を解決に導く力を備えることが求められる。そこで本科目では、「リーダーシップとは何か」「問題とは何か」という基本的なことから、リーダーシップの多様性や問題発見・解決策発想の技法まで、問題解決に必要な視点やスキルを学習する。

担当教員からの講義と、学生個人演習及びグループワークを組み合わせで進行する。特にグループワークは毎回行うため、能動的な姿勢で受講することが必須である。また、講義時間外にグループで集まり、議論の続きや発表準備の必要が生じる可能性も高い。学生間で日時調整を行いながら、主体的に取り組んで頂きたい。

達成目標

- (1) 自分なりのリーダーシップとは何かを設定し、それをグループワークで発揮できる。
- (2) 問題とは何かを理解し、自分自身で問題を発見することができる。
- (3) 問題の原因に迫るため、論理的思考を働かせることができる。
- (4) 他者と協働しながらさまざまなアイデアを発想し、プランの形にまとめて問題解決策を提案できる。

スケジュール

- 第1回 講義オリエンテーション(講義概要、スケジュール、評価方法、受講ルール等)
- 第2回 リーダーシップの基礎理解とリーダーシップ目標の設定
- 第3回 問題の基礎理解と問題発見
- 第4回 問題発見の発表(学生による発表と討論)
- 第5回 問題解決の基本ステップと優先順位の設定
- 第6回 問題の原因探求
- 第7回 問題構造の検討と発表準備
- 第8回 問題構造の発表(学生による発表と全体討論)
- 第9回 中間振り返り(個人レベル、グループレベル)
- 第10回 解決策の検討(1)発散的思考
- 第11回 解決策の検討(2)収束的思考
- 第12回 問題解決プランの構築
- 第13回 問題解決プランの発表準備
- 第14回 問題解決プランの発表(学生による発表と全体討論)
- 第15回 最終振り返り(経験の振り返りと抽象化、リーダーシップ目標の再設定)

教科書・参考文献

教科書 スクリーン投影のPowerPointスライドを中心に講義を進める。

参考書 講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

予習：講義中に次回講義に向けた予習を指示する。おもに関連文献の探索・読み込みである。
復習：講義後は、自身のノートに当該回で学習したことをまとめておく。また、必要に応じてグループで集まり、議論の続きや発表準備などを行う。

評価方法

宿題やグループ内でのディスカッション：30%、発表：70%(問題発見、問題構造、問題解決プラン)

履修上の注意

- (1) 履修者数や履修者の学習状況等により、講義計画を変更する場合がある。その際は、講義内で担当教員より変更内容を説明する。
- (2) 遅刻や授業中の私語、スマートフォンなどの電子端末機器の使用は厳禁である。その他の受講ルールは第1回講義で説明する。そのため履修希望者は必ず第1回講義に出席すること。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

担当教員
非常勤講師 大坪 玲子 (オオツボ レイコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

毎回、(1)講師による講義、(2)討論という構成で授業を進める。
イスラームの基本的な知識に加えて、過激な思想だけでなく、ごく普通の人々の生活を知る。それと自文化を比較させ、自文化とは何か、異文化とは何かを考える。

達成目標

異文化の事例としてイスラームを理解し、自文化(履修学生によって異なるだろう)を見直す。イスラーム文化とは一口で言っても多様であるので、その多様性も理解する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 イスラーム入門
- 第3回 年中行事
- 第4回 通過儀礼
- 第5回 マナー
- 第6回 社交
- 第7回 嗜好品
- 第8回 家族
- 第9回 民族
- 第10回 宗派
- 第11回 ジェンダー
- 第12回 近代化の挫折
- 第13回 アラブの春とその後
- 第14回 移民
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 授業中適宜紹介する。

授業外での学習

授業で扱わない、異文化について意識して情報を集めること。

評価方法

受講状況50%、レポート50%。

履修上の注意

沈黙は「金」ではなく「禁」である。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

講師 佐藤 和宏 (サトウ カズヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

- ・ 貧困や社会的排除を社会的に分析し、その歴史や位置づけなどについて多角的に分析する。

達成目標

- ・ 貧困や社会的排除を多角的に分析できるようになる。
- ・ 貧困や社会的排除への理解を深める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 参加者の問題関心やゼミ運営について議論
- 第3回 文献講読①『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第4回 文献講読②『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第5回 文献講読③『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第6回 文献講読④『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第7回 文献講読⑤『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第8回 文献講読⑥『閉ざされた扉をこじ開ける』
- 第9回 文献講読の振り返り
- 第10回 個人研究発表①
- 第11回 個人研究発表②
- 第12回 個人研究発表③
- 第13回 個人研究発表④
- 第14回 個人研究発表⑤
- 第15回 研究発表の振り返り
- 第16回 まとめ

教科書・参考文献

- 教科書 稲葉剛, 2020, 『閉ざされた扉をこじ開ける—排除と貧困に抗うソーシャルアクション』朝日新聞出版.
- 参考書 特になし

授業外での学習

ゼミ前には、貧困問題や貧困対策に関連する項目について、教科書を中心に勉強をすること。ゼミ後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。日常的に新聞記事やニュース番組、ドキュメンタリー映像、映画やマンガなどに接する機会があれば、貧困との関わりについて考えること。

評価方法

受講状況(4割)・ 期末レポート提出(6割)

履修上の注意

基本的には毎回参加すること

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

講師 佐藤 和宏 (サトウ カズヒロ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

- 生活保護について学習し、その歴史や位置づけなどについて多角的に分析する。

達成目標

- 生活保護や貧困問題を多角的に分析できるようになる。
- 生活保護や貧困問題への理解を深める。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 参加者の問題関心やゼミ運営について議論
- 第3回 文献講読①『生活保護から考える』
- 第4回 文献講読②『生活保護から考える』
- 第5回 文献講読③『生活保護から考える』
- 第6回 文献講読④『生活保護から考える』
- 第7回 文献講読⑤『生活保護から考える』
- 第8回 文献講読⑥『生活保護から考える』
- 第9回 文献講読の振り返り
- 第10回 個人研究発表①
- 第11回 個人研究発表②
- 第12回 個人研究発表③
- 第13回 個人研究発表④
- 第14回 個人研究発表⑤
- 第15回 研究発表の振り返り
- 第16回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 稲葉剛, 2013, 『生活保護から考える』岩波書店.

参考書 特になし

授業外での学習

ゼミ前には、生活保護や貧困対策に関連する項目について、教科書を中心に勉強をすること。ゼミ後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。日常的に新聞記事やニュース番組、ドキュメンタリー映像、映画やマンガなどに接する機会があれば、貧困との関わりについて考えること。

評価方法

受講状況(4割)・ 期末レポート提出(6割)

履修上の注意

基本的には毎回参加すること

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

教授 原 史子 (ハラ アヤコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

本科目では、学生一人ひとりが、自己と他者との違いを認識しグループ研究に取り組み、課題を設定し、調べ、その成果をまとめ発表する一連のプロセスを体験する。グループ研究は、地域における福祉課題としてどのような事柄があるのか主体的に探索するとともに、実情を調べ解決のための方策を検討することを通し、地域における社会福祉の実際を理解することを目的とする。

達成目標

- ①グループワークに主体的にかかわり協働することができる。
②地域における福祉課題を発見し、課題を整理・分析することを通して論理的に思考できる。

スケジュール

- 第1回 講義オリエンテーション(講義概要、スケジュール、評価方法等)
第2回 自己理解と他者理解①
第3回 自己理解と他者理解②
第4回 自己と他者の価値
第5回 福祉分野における課題の探求
第6回 福祉分野における課題の整理と選定
第7回 課題の現状分析①資料収集
第8回 課題の現状分析②資料分析
第9回 課題とその背景についての発表
第10回 中間振り返り
第11回 課題解決策の検討①
第12回 課題解決策の検討②
第13回 問題解決策の発表準備
第14回 問題解決策の発表
第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 川喜田二郎『発想法』中公新書。その他、講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

- 授業内で指示する課題について調べる、関連文献の探索・読み込み等を行う。
- 必要に応じてグループで集まり、発表準備等を行う。

評価方法

- 授業内での報告・発表(50%)、課題やグループワークへの取り組み状況(50%)により総合的に評価する。

履修上の注意

- 履修者数により講義計画を変更する場合がある。その際は講義内で説明する。
- 授業はグループワークを中心に進める。講義時間外にグループで集まり、議論の続きや発表準備が必要となる可能性も高いため、グループ活動に主体的に参画できる学生の受講を希望する。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

教授 山本 匡毅 (ヤマモト マサキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

本科目は、PBL (Project Based Learning : 課題解決型学修) を通して、学生の地域課題解決力を向上することを目的とする。地方圏では地域経済・地域社会の問題が複雑化している。地域政策学部の学生は、これらの問題に主体的に関わり、課題解決できる人材になることが期待されている。当科目は実際の地域課題をもとに、これまで得た知識、理論、分析方法をもとに、地域課題の分析、課題解決の提案を行い、課題解決に必要な視座とスキルを学修する。

PBLの実践では、山形県長井市と連携する。本科目は講義よりも主体的に学修するアクティブラーニングが中心となる。個人での調査、グループワークによる分析、提案作成など、能動的な学びの姿勢が必須条件となる。また講義時間外の学修も願います。受講生がお互いを尊重し合い、主体的に学ぶことを期待したい。

達成目標

- (1) 各自の役割を理解し、グループワークの中で役割を十分に果たさせることができる。
- (2) 地域課題を観察し、問題の所在を見つけることができる。
- (3) 課題発生の要因を把握するため、客観的、論理的に考えることができる。
- (4) 地域課題の問題、発生要因を踏まえ、グループでプランとして解決策を提案できる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要の説明、地域課題の解説など
- 第2回 地域課題と課題解決：アイスブレイク、グループ分け、地域課題の変化、課題解決の方法と意義
- 第3回 対象地域の説明と調査：山形県長井市の地域構造や地域特性を把握する。
- 第4回 地域課題の探索①：地域課題の整理
- 第5回 地域課題の探索②：地域特性と地域課題
- 第6回 地域課題の要因分析：地域課題の発生要因を分析する。
- 第7回 地域課題の要因分析のまとめと発表準備：グループワークで発表準備を行う。
- 第8回 中間報告とディスカッション：受講生による報告と討論
- 第9回 ディスカッションを踏まえた要因分析の再検討
- 第10回 地域課題の解決策の検討①：他地域の取り組みの調査
- 第11回 地域課題の解決策の検討②：地域特性と解決策の適合性確認
- 第12回 地域課題解決策の作成：グループワークで提案を作成する。
- 第13回 地域課題解決策の発表準備：グループワークで発表準備を行う。
- 第14回 地域課題解決策の発表：受講生による報告と討論
- 第15回 まとめ：授業の振り返り、地域課題解決に向けた課題の検討

教科書・参考文献

教科書 使用しない。

参考書 講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

【予習】前回の授業内で指示された次回までの課題の学修を行う。個人では関連文献・資料の調査を進める。その際に地域課題のテーマに合致する取り組み事例を1つ調べ、まとめておく。

【復習】講義後にグループで内容を確認し、グループで議論、調査、発表準備等を進める。

評価方法

授業とグループワークへの貢献度 (授業・グループワークへの参加 (発言、資料作成など)) : 50%
発表とディスカッション : 50%

履修上の注意

- (1) 予備知識は問わないので、1年生から履修して問題がないようになっている。ただし半年間、熱心に取り組む意欲が必要である。
- (2) 私語、遅刻、不要不急の出入り、無断欠席は厳禁とする。単位取得には3分の2以上の出席を要する。
- (3) 第1回講義で受講ルール等を説明するので、履修を希望する学生は、第1回講義に必ず出席すること。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

教授 山本 匡毅 (ヤマモト マサキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

本科目は、PBL (Project Based Learning : 課題解決型学修) を通して、学生の地域課題解決力を向上することを目的とする。地方圏では地域経済・地域社会の問題が複雑化している。地域政策学部の学生は、これらの問題に主体的に関わり、課題解決できる人材になることが期待されている。当科目は実際の地域課題をもとに、これまで得た知識、理論、分析方法をもとに、地域課題の分析、課題解決の提案を行い、課題解決に必要な視座とスキルを学修する。

PBLの実践では、山形県長井市と連携する。本科目は講義よりも主体的に学修するアクティブラーニングが中心となる。個人での調査、グループワークによる分析、提案作成など、能動的な学びの姿勢が必須条件となる。また講義時間外の学修も願います。受講生がお互いを尊重し合い、主体的に学ぶことを期待したい。

達成目標

- (1) 各自の役割を理解し、グループワークの中で役割を十分に果たさせることができる。
- (2) 地域課題を観察し、問題の所在を見つけることができる。
- (3) 課題発生の要因を把握するため、客観的、論理的に考えることができる。
- (4) 地域課題の問題、発生要因を踏まえ、グループでプランとして解決策を提案できる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要の説明、地域課題の解説など
- 第2回 地域課題と課題解決：アイスブレイク、グループ分け、地域課題の変化、課題解決の方法と意義
- 第3回 対象地域の説明と調査：山形県長井市の地域構造や地域特性を把握する。
- 第4回 地域課題の探索①：地域課題の整理
- 第5回 地域課題の探索②：地域特性と地域課題
- 第6回 地域課題の要因分析：地域課題の発生要因を分析する。
- 第7回 地域課題の要因分析のまとめと発表準備：グループワークで発表準備を行う。
- 第8回 中間報告とディスカッション：受講生による報告と討論
- 第9回 ディスカッションを踏まえた要因分析の再検討
- 第10回 地域課題の解決策の検討①：他地域の取り組みの調査
- 第11回 地域課題の解決策の検討②：地域特性と解決策の適合性確認
- 第12回 地域課題解決策の作成：グループワークで提案を作成する。
- 第13回 地域課題解決策の発表準備：グループワークで発表準備を行う。
- 第14回 地域課題解決策の発表：受講生による報告と討論
- 第15回 まとめ：授業の振り返り、地域課題解決に向けた課題の検討

教科書・参考文献

教科書 使用しない。

参考書 講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

【予習】前回の授業内で指示された次回までの課題の学修を行う。個人では関連文献・資料の調査を進める。その際に地域課題のテーマに合致する取り組み事例を1つ調べ、まとめておく。

【復習】講義後にグループで内容を確認し、グループで議論、調査、発表準備等を進める。

評価方法

授業とグループワークへの貢献度 (授業・グループワークへの参加 (発言、資料作成など)) : 50%
発表とディスカッション : 50%

履修上の注意

(1) 予備知識は問わないので、1年生から履修して問題がないようになっている。ただし半年間、熱心に取り組む意欲が必要である。

(2) 私語、遅刻、不要不急の出入り、無断欠席は厳禁とする。単位取得には3分の2以上の出席を要する。

(3) 第1回講義で受講ルール等を説明するので、履修を希望する学生は、第1回講義に必ず出席すること。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分

単位数

開講時期

目的

本科目の狙いは、世界の食料市場、日本の農業・農村そして毎日の食生活のつながりを理解することです。予備知識がなくても、広い視野から食と農の問題にアプローチできるように、教員の講義と、学生の発表及びグループワークを組み合わせるスタイルをとります。そのため、受講生には情報収集、文献整理そしてディスカッションの力を身に着けることと、主体的に取り組む姿勢が求められます。

達成目標

以下の問題について理解した上、自分の考えを論理的に述べられることを目標としています。

- ①食料問題の本質
- ②日本農業・農村の実態
- ③食と農のつながり

スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
第2回 食料危機は本当にやってくるのか(1)
第3回 食料危機は本当にやってくるのか(2)
第4回 食料危機は本当にやってくるのか(3)
第5回 「先進国=工業国、途上国=農業国」は本当か？(1)
第6回 「先進国=工業国、途上国=農業国」は本当か？(2)
第7回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(1)
第8回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(2)
第9回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(3)
第10回 日本の農業は本当に弱いのか？(1)
第11回 日本の農業は本当に弱いのか？(2)
第12回 日本の農業は本当に弱いのか？(3)
第13回 食料は輸入に任せて良いのか？(1)
第14回 食料は輸入に任せて良いのか？(1)
第15回 講義のまとめと意見交換

教科書・参考文献

教科書 新版『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』/生源寺眞一,家の光協会

参考書 講義中に随時指示する。

授業外での学習

必要に応じて予習・復習すること。

評価方法

期末試験を主とするが、受講生の出席状況によって実施するミニテストや中間レポート(いずれも20%とする)も評価対象となる。なお、成績評価には、総授業時間数のうち、2/3以上を出席することが求められる。

履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。

科目名 グループ研究II
Title Group Studies II
科目区分 特別講義

担当教員

担当教員との連絡方法

()

E-Mail

配当年次
1

単位区分
選択

単位数

開講時期

目的

本科目の狙いは、世界の食料市場、日本の農業・農村そして毎日の食生活のつながりを理解することです。予備知識がなくても、広い視野から食と農の問題にアプローチできるよう、教員の講義と、学生の発表及びグループワークを組み合わせるスタイルをとります。そのため、受講生には情報収集、文献整理そしてディスカッションの力を身に着けることと、主体的に取り組む姿勢が求められます。

達成目標

以下の問題について理解した上、自分の考えを論理的に述べられることを目標としています。①食料問題の本質 ②日本農業・農村の実態 ③食と農のつながり

スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
- 第2回 食料危機は本当にやってくるのか(1)
- 第3回 食料危機は本当にやってくるのか(2)
- 第4回 食料危機は本当にやってくるのか(3)
- 第5回 「先進国=工業国、途上国=農業国」は本当か？(1)
- 第6回 「先進国=工業国、途上国=農業国」は本当か？(2)
- 第7回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(1)
- 第8回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(2)
- 第9回 自給率で食料事情は本当にわかるのか？(3)
- 第10回 日本の農業は本当に弱いのか？(1)
- 第11回 日本の農業は本当に弱いのか？(2)
- 第12回 日本の農業は本当に弱いのか？(3)
- 第13回 食料は輸入に任せて良いのか？(1)
- 第14回 食料は輸入に任せて良いのか？(2)
- 第15回 講義のまとめと意見交換

教科書・参考文献

- 教科書 新版『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる 高校生からの食と農の経済学入門』/生源寺眞一、家の光協会
- 参考書 講義中に随時指示する。

授業外での学習

必要に応じて予習・復習すること。

評価方法

期末試験を主とするが、受講生の出席状況によって実施するミニテストや中間レポート(いずれも20%とする)も評価対象となる。なお、成績評価には、総授業時間数のうち、2/3以上を出席することが求められる。

履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。